

# 心ふれあう『ブックスタート』

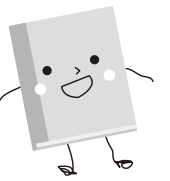
## 絵本の楽しさを分かち合おう

市のブックスタート事業が始まって10年がたちました。事業のようすを図書館や保健センターで見かけられたり、「ウチの子、受けました!」といわれる方も多いと思います。



### 「ブックスタート」とは?

赤ちゃんは、大切な存在です。全ての赤ちゃんが生まれた時から愛情に包まれて生きていくことができたら、とても素晴らしいことです。



保護者や赤ちゃんの周りにいるたくさんの方が、赤ちゃんに愛情あふれた「ことば」を語りかけることで、赤ちゃんは自分がとても大切にされ、愛されていることを知り、喜びを感じます。また、それは大人にとっても、心が安らぐ時となります。

絵本は、そんな時間を、ごく自然につくる機会を与えてくれます。

絵本を開くことで、だれもが楽しく、赤ちゃんもゆっくり心ふれあう時間をもてるようお手伝いする活動が「ブックスタート」です。



また、ゆっくりめくられるページを目で追い、めくるごとに色や形を見つめます。

「4か月の赤ちゃんが?」と思われられるかもしれません。でも、大抵の赤ちゃんは、目をいっぱいに見開き、耳をすまして、時には手足を動かし、大人がびっくりするような反応を見せてくれます。

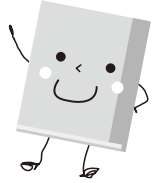
最後に「ブックスタートパック」という、子育てに役立つような本に関する情報が入ったパックと一緒に絵本を1冊受け取って終了です。

1歳のお誕生日には、図書館から2回目のブックスタートの案内が赤ちゃんの名前で郵送されてきます。それを持って赤ちゃんを保



### 「ブックスタート」のようす

赤ちゃんは、2回ブックスタートを受けます。1回目は、市の4か月児健康診査会場で、健診の合間の時間です。



お名前を呼ばれた赤ちゃんは、保護者と一緒にブックスタートのコーナーにやってきました。保護者は、赤ちゃんをひざにのせたり、抱っこしながら、ブックスタートサポーターが絵本を読む声を聞いて、赤ちゃんに声をかけたり、反応を見たりして見守ります。一方赤ちゃんは、じーっと絵本や読んでくれる人の方に目を向けます。

関今津図書館 ☎(22)38227  
安曇川図書館 ☎(32)47111

### はじまりは?

発祥はイギリスです。日本は、世界で2番目に「ブックスタート事業」を全国的に取り組んできました。

ブックスタートが日本で初めて紹介されたのは、平成13年子ども読書年の記念イベントでのことでした。それから19年。今では、1,083の自治体で実施されています。(平成31年2月28日現在 NPOブックスタート調べ)

市では、平成20年6月から始まり、延べ6,500人の赤ちゃんとその保護者にブックスタートを受けていただきました。(平成31年2月末時点)

対象は、4か月と1歳の赤ちゃんとその保護者です。

### 地域みんなで協力し合う

実施にあたって、図書館、保健センター、子育て支援センターやブックスタートサポーターなどさまざまな人が関わっています。



ブックスタートサポーターの  
パックづくり

4か月児ブックスタート用絵本  
(この中から1冊選ぶ)

護者は、図書館で2回目のブックスタートを受けます。

ブックスタートは、絵本を手渡ししておしまいという事業ではありません。発祥の地イギリスから引き継がれているのは「share books (シェアブックス)」という絵本の楽しさを分かち合うという考え方です。

赤ちゃんと家族が、絵本を読む間、一緒に楽しむそんな時間を作り出し、会場で赤ちゃんを持つ保護者同士が出会うきっかけをつくり、事業に関わる地域の人と赤ちゃんが繋がっていく。ブックスタートがそんな事業になって



くれることを願って、気持ちを新たに、赤ちゃんに絵本をひらく楽しい時間を分かち合う活動を続けていきたいと思えます。

### ブックスタートを受けた お子さんの保護者アンケート (抜粋)

- 親子で楽しみながらゆっくりとした時間が持てた。大好きなストーリーは何度も見たがり、喜んでいる。
- 一緒にテレビを見るよりも、一緒に絵本を読むほうが、子どもも自分も穏やかでいい時間を過ごすことができます。
- 子どもが落ち着いたようすで、優しい表情になる。それを見た自分も穏やかな気持ちになれる。
- 6歳の上の子どもが、1歳の下の子どもに読み聞かせているようすを見ると心が和む。
- 同じシーンで何度も笑い、何度も読んだと言われた。
- 小さいときから本を読んだら「お休み」というのが定着し、ゆっくりした時間が持ててグズグズ言わず、すーっと寝てくれる。
- 寝る前に絵本を読んでいると子どもよりも先に私が眠ってしまうことがあります(笑)親子ともに絵本が大好きです。